

- 学術情報流通の推進に向けた取組み

- オープンサイエンスの推進

- 研究データ基盤について、海外先行機関、大学の情報系の関連組織やオープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）との連携・協力のもと、要求定義や開発仕様を策定し、システム開発を行う
- オープンサイエンスに資するための研究データ基盤に関わる事項を推進するオープンサイエンス基盤研究センターを設置
- 「学術情報ネットワーク運営・連携本部」に研究データ管理基盤の構築などの取組みについて議論を行う「オープンサイエンス研究データ基盤作業部会」を設置

- SPARC Japan

- オープンアクセス、オープンサイエンスを推進するために、国内外の学術情報流通の動向や実態の把握に努め、それらに基づいた学術情報の公開や利活用に係る戦略の検討と調整、アドボカシー活動等を、学術コミュニティ等を中心としたステークホルダーの参画や連携のもとに行う
- 国際的なイニシアティブとの連携，具体的には，arXiv.org・CLOCKSS・SCOAP³の各活動を支援するべく，国内関係機関への周知や支援（拠出金）の取りまとめを行っている。
- 米国SPARCと2006年に覚書を取り交わし，「SPARC Japan」の名を冠した諸活動これからの学術情報システム構築検討委員会で「これからの学術情報システムの在り方について（2019）」として公開、目録所在情報等に関するデータベースの整備を中心に、今後の学術情報システムのあり方を検討

- 連携・協力推進会議の下のコミュニティへの支援

- 取組みを進める上での課題

- オープンサイエンスの推進

- 研究データの管理，共有，公開についての具体的な事例の形成，収集
- デジタルアーカイブ，研究データなどオープンアクセス，オープンサイエンスに関するメタデータ流通の高度化，多様なメタデータ間の連携，ナレッジグラフ形成，オープン化
- エビデンスデータに基づくOAやOSの推進，OA，OSのエビデンスデータ収集分析
- OAやOSの推進のための人材育成

- SPARC Japan

- SCOAP3，CLOCKSS，arXiv.orgを推進する体制の構築
- arXiv・SCOAP³について，利用頻度や高い機関や論文の投稿実績のある機関からの支援が，一部得られていない。
- 米国SPARCとのMOUでは，「団体間の密接かつ日常的なコミュニケーションが不可欠である」と記載されているものの，具体的な連携までに至っていない。
- アドボカシー活動のため，研究者・図書館職員・URAに企画いただいたSPARC Japanセミナーを開催しているが，研究者コミュニティに対してセミナーの広報・アピールができていない。また，実際に参加者も少ない。
- JUSTICEと協力して論文公表実態調査を継続しているものの，電子ジャーナルの購読については世界的規模でも行われており，この種の調査に協力できていない。
 - 例：Big Deal Cancellation Tracking <https://sparcopen.org/our-work/big-deal-cancellation-tracking/>

- 連携・協力推進会議の下のコミュニティへの支援の在り方

記載者（国立情報学研究所(NII)）

- 取組みを進める上で、他のステークホルダーと連携できること、他のステークホルダーに望むこと等

大学（図書館）

- 研究データの管理，共有，公開について大学図書館等と連携し，事例を形成する
- 連携・協力推進会議の下のコミュニティの在り方の検討

JPCOAR

- 次世代リポジトリへの取組み
- JAIRO Cloudを共同運営し，オープンアクセス及びオープンサイエンスの基盤を提供する
- JPCOARスキーマをNIIのIRDBに実装することにより、リポジトリコンテンツの流通を促進する
- 研究データ管理に関する教材を開発し，NIIの学認LMSを通じて公開する

JUSTICE

- 学術コミュニティ主体の代替学術出版プラットフォームとしての機関リポジトリの普及を通じ，JUSTICEのOA2020ロードマップ推進に寄与する
- JUSTICEと協力して，国外で行われている調査等で協力すべきものを調べ，もし該当するものがあれば，国内ステークホルダーに周知するとともに，調査への協力を要請する。
- 論文公表実態調査のデータ共有と，ステークホルダで連携した分析

記載者（国立情報学研究所(NII)）

- 取組みを進める上で、他のステークホルダーと連携できること、他のステークホルダーに望むこと等

全体（大学図書館，JPCOAR，JUSITCE，JST，NIIが連携）

- SCOAP³，CLOCKSS，arXiv.orgを推進する体制の構築
- データ共有を行い，OAやOS推進策を考えるための基礎データを作成，分析
- 連携して，若手人材育成・活動の場の提供
- 連携して，各機関で関係コミュニティ（特に研究者コミュニティ）に対するアドボカシー活動
- 日本学術会議なども加え，協調の対象を広く考えてはどうか
- 研究者コミュニティへの情報発信や協調を具体化
- SPARCやSPARC Europeとの連携の在り方の検討